

2023年度 図書館 貴重書・特別資料展示

## 古典の世界 ～書物からみる和の文化～



展示場所

獨協大学図書館 2階 貴重書展示コーナー

展示期間

2023年 12月8日(金) ～ 2024年 1月25日(木)

**百人一首かるた 一揃 [肉筆、木版筆彩] (江戸時代中期) T-449 資料 ID 199347196**

このかるたは江戸時代中期に、札の文字は肉筆、絵は木版筆彩で作られたと推測されています。黒漆に蒔絵がほどこされた箱に、読み札、取り札それぞれ 100 枚が収められており、札の表は金箔の砂子がほどこされ、裏は銀箔で裏打ちされ、美しく豪華な作りです。読み札には歌とともに作者の姿絵が描かれており、これを歌仙絵といい、天皇には台座があります。

**源氏物語絵巻 4 軸 [複製版] (講談社, 1967 年) T-95-1~5 資料 ID 185835660 ほか**

この絵巻の原本は、徳川美術館（名古屋市）と五島美術館（世田谷区）が所蔵する国宝『源氏物語絵巻』で、現存する絵巻物の中で最も古いものと言われています。

『源氏物語』は 11 世紀の初め（1000 年頃）の平安時代中期に紫式部があらわした 54 帖で構成される長編物語ですが、絵画と詞書が交互にあらわされた絵巻物として成立したのは平安後期の 12 世紀の前半頃と推定されています。『源氏物語絵巻』は長い年月を経る中で、その一部のみが伝わっています。徳川美術館と五島美術館で所蔵される絵巻は、長い年月の中で帖や段の順序が乱れるようになったことから、昭和になり保存に適した額式装幀に改められました。

復刻にあたりそれらの詞と絵を物語の正しい順序に並べ替えて、4 巻の絵巻形式に仕立てられ、絵巻本来の美しさを感じられる作品となっています。

**万葉集 20 帖 [写本] (江戸時代前期) 資料 ID 170051238, 170051416 ほか**

『万葉集』は、7 世紀後半から 8 世紀後半にかけて編纂された、現存するわが国最古の歌集としてよく知られた作品ですが、この写本は、それより後の 12 世紀後期の書物を、さらに江戸時代に写した作品と推定されます。20 帖で構成され、表紙には紺紙に金泥の草花文様があしらわれ、見返しにも金泥の草花文様が入っています。更に、表紙に貼られた題簽にも金をちらした豪華な装幀で、20 帖が欠けなく揃った大変貴重なものです。

**伊勢物語 上・下 [写本] (江戸時代中期) 資料 ID 185836402, 185836410**

『伊勢物語』は、平安時代に実在した在原業平を主人公とした歌物語で、現存する日本の歌物語の中、最古の作品といわれています。この写本は、銀泥刷毛流しに書き題簽が貼られた凝った表紙で、本文には随所に白描きの挿絵が見られます。上巻末尾の極札に「清閑寺大納熙定」の記載があり、17 世紀から 18 世紀末の書写と思われる。

**徒然草 上・下 [複製版] (日本古典文学刊行会, 1972) T-115 資料 ID 185836402, 185836410**

『徒然草』は日本の随筆文学を代表する作品で、兼好法師が元弘元年（1331 年頃）に書いたと推定されています。原本は静嘉堂文庫の所蔵のもので、東福寺の書記を務めた禅僧で歌人の正徹（しょうてつ）がいくつか書筆した『徒然草』の 1 つで、現在まで残る百余の『徒然草』の写本の中で、最古の伝本と言われています。